

# こども通信

4月になり、高田城跡公園の桜も咲き出そうとしています。お花見はやっぱりいいですね。

雪で閉ざされた世界から、一挙に解放された感じがします。色のある風景は、心を和ませてくれます。

今年から入園・入学の子どもたち、進級・進学する子どもたち、みなおめでとうございます。桜もその姿を応援しているようです。



戦争が始まってしまいました。アメリカ、イスラエルのイラン攻撃です。イラン政府の高官を直接殺害するという展開から始まりました。

戦闘が始まり1ヶ月が経ちます

が、未だ集結(終戦)の見通しは立ってません。

この間に亡くなった人はイランで2千人を超えました。アメリカ軍の誤爆により、ある小学校で女兒175人がなくなるといって、痛まし

い出来事もありました。

トランプ大統領が戦争を起こした理由は、イランの核開発を阻止するためだとか。でもその協議をしている最中に戦闘を開始してい

ます。

イスラエルのネタニヤフ首相は、イランの体制転換を望んでいるようです。ネタニヤフにそのかされて、トランプが攻撃を仕掛けたという話

水曜午後の外来を行っています。  
診療時間は午後2時〜5時です。

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
漢方内科

上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456

ホームページ  
www.kodomo-iin.com



## 感染症情報

インフルエンザB型の大きな流行がやっと下火になって来ました。今シーズンはA型が1ヶ月ほど早くから流行がスタート。一旦下火になりましたが、1月下旬にB型の流行が始まり、2月上旬に最大の流行になりました。その後ゆっくり下火になり、今では収束が近い状態です。B型は春先に多いと言われています。もうしばらく注意をしてください。

新型コロナウイルス感染症は少数の発生です。

感染性胃腸炎の発生も多かったのですが、減少しています。嘔吐と下痢があり、乳幼児では脱水や低血糖にならないように注意が必要です。

溶連菌感染症もやや発生が多めでした。強い咽頭痛と発熱が特徴です。

RSウイルス感染症が少し見られています。小さな乳児がかかると喘息のような発作を起こし、重症になることがあります。4月から妊婦さんへのワクチン接種が無料で行われます。

麻疹(はしか)の発生はありません。しかし全国的には麻疹患者は出ています。大変に伝染力が強いので、十分に注意が必要です。

麻疹の予防接種は1歳代と入学前1年間の2回が必要です。1歳になったら早めにワクチン接種を受けてください。麻疹の流行が拡がらないように願っています。

もあります。

いずれにせよ、戦争は仕掛けたものが降りることですが、終結はできません。アメリカの民衆が立ち上がり、同盟国がトランプに意見することが必要です。

1日も早い終戦が望まれます。

\* \*

ホルムズ海峡の事実上の閉鎖が、私たちの生活にいろんな問題を起こしています。原油価格の上昇は、今

は補助金で分かりにくくなっていますが、いつまで続くことでしょうか。石油材料のナフサが不足すれば、それから作られている製品の流通がストップします。医療の中でも同じです。ナフサは注射器などの材料ですし、多くの薬もナフサから作られています。

ナフサ不足が医療危機に直結するのは、時間の問題です。覚悟しておかないといけないようです。

## 予防接種

## RSVワクチン

RSウイルスは、私たち小児科医にとつては厄介で、嫌なウイルスです。これが流行っていると、思いがけないことが起こります。

特に年齢の小さな子にとつては、重症になることがあります。入院することもあり、注意が必要です。

以前は冬を代表とする風邪ウイルスでしたが、近年（10年くらい前から）流行発生のパターンは大きく変化しました。

一昨年は夏前に大きめの流行がありました。その後は一年を通して発生がありますが、夏前に多くなる傾向のようです。

## ●特徴

RSウイルスは、風邪を起こすウイルスです。十分な免疫ができず、一生のうちで何度でもかかることが

あります。

2歳までにほぼ全員がかかると言われています。特に生後半年程度までの乳児では重症になります。細気管支炎といつて、喘息のように息が

荒く、呼吸困難になることもありま

す。ゼーゼーしたり、呼吸数が多い時、顔色が真っ白、あるいは紫色になつているなどは呼吸困難が起きている状態が心配です。病院へ急いでください。

乳児の時にRSウイルスにかかる

## ●成人の場合

大人の方もRSウイルスにかかる

ことがあります。通常は普通の感冒

症状（発熱、咳、鼻汁など）で、1

〜2週間で治っていきます。しかし高齢者、喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、心疾患などの基礎疾患を持つ方はかかると、時に

重症になります。肺炎になり、入院する期間はインフルエンザの2倍と言われています。

RSウイルスは乳児とともに高齢者などが問題になります。このため、ワクチンの開発はまずは高齢者を対象として始められました。

現在、日本でも60歳以上、または50歳以上で基礎疾患を持つ方を対象にワクチン接種ができます。とても効果があるので、該当する方は接種を考慮してください。

## ●乳児への対応

現在、乳児へのワクチン接種はありません。リスクのある乳児には抗体薬がありますが、接種対象は限定されています。

そこで考えられたのが妊婦への接種です。妊婦にRSウイルスのワクチン接種を行い、妊婦の体内にRSウイルスに対する抗体を作ります。

それが胎盤を通じて胎児に移行し、生まれてくる乳児をRSウイルスから守ろうとする戦略です。

これがうまくいき、今月から公費で行われることになりました（定期

接種）。対象は24週〜36週の妊婦です（推奨期間は28週〜36週）。接種は1回です。抗体が作られるまでの時間がかかるため、出産直前での接種は効果がなく、接種対象にはなっていません。

接種によつて乳児の感染を防ぐ効果は、生後3ヶ月以内で57%（重症化を防ぐ効果は82%）と言われています。大きな副作用は特にありません。

早産の場合、十分な移行免疫がないことが考えられます。抗体薬を使い、RSウイルスにかからないか、かかっても軽くすむようにします。

こういったこと意外に、基本的な感染対策は大切です。換気、手洗い、手指消毒、マスク着用などです。特に感染している人がいれば、乳児にできるだけ近づけないことが大切です（と言ってもきょうだいではなかなか難しいですが）。

RSウイルスに限らず、インフルエンザや他の呼吸器疾患を起こすウイルスの対策は同じです。赤ちゃんを感染症から守るよう、十分に気をつけてください。

オンライン診療を行っています。  
希望の方は予約画面からどうぞ。